

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 2023年11月13日

【四半期会計期間】 第95期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社RKB毎日ホールディングス

【英訳名】 RKB MAINICHI HOLDINGS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 泉

【本店の所在の場所】 福岡市早良区百道浜二丁目3番8号

【電話番号】 (092)852-6624

【事務連絡者氏名】 経理局長 市川 健治

【最寄りの連絡場所】 福岡市早良区百道浜二丁目3番8号

【電話番号】 (092)852-6624

【事務連絡者氏名】 経理局長 市川 健治

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第94期 第2四半期 連結累計期間	第95期 第2四半期 連結累計期間	第94期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	10,504	10,860	22,725
経常利益 (百万円)	263	483	1,353
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	135	259	669
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	10	1,288	929
純資産額 (百万円)	35,966	38,019	36,906
総資産額 (百万円)	47,062	50,022	49,027
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	61.75	118.20	305.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	74.29	73.75	73.05
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	663	1,123	1,136
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	701	796	445
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	507	326	663
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	9,584	10,159	10,157

回次	第94期 第2四半期 連結会計期間	第95期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	34.69	39.22

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社グループ会社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

主要な関係会社についての異動は、以下のとおりであります。

(その他事業)

第1四半期連結会計期間に、サーモンの陸上養殖事業への参入に伴い宗像陸上養殖株式会社を新規設立しております。

(放送事業及びその他事業)

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社RKB映画社は、同じく当社の連結子会社であるRKBミュージズ株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅し、連結の範囲から除外しております。なお、

RKBミュージズ株式会社は株式会社RKB CINCに商号変更しております

この結果、2023年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社6社及び関連会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(経営成績)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことや感染拡大防止に伴う行動制限が解除されたことにより、個人消費の増加基調やインバウンド需要の増加など、緩やかな景気回復基調となりました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高騰や円安による物価上昇、ウクライナ情勢の長期化等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、主力事業である放送事業収入は、主力商品であるテレビスポットCMの受注が景気の不透明感や物価上昇の影響等により減収となりました。一方、システム関連事業収入は、受注が好調で利益率の高い案件も受注できたことで増収増益となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高108億60百万円（前年同期比 3.4%増）となり、営業利益は3億79百万円（前年同期比 143.2%増）、経常利益は4億83百万円（前年同期比 83.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億59百万円（前年同期比 91.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

放送事業

放送事業は、収入66億9百万円（前年同期比 1.3%減）、営業損失5百万円（前年同期は営業損失43百万円）となりました。

テレビ部門は、収入61億55百万円（前年同期比 0.9%減）となりました。主力商品であるスポット収入は、アルコール飲料や流通・小売等が前年同期を上回りましたが、食品、薬品、トイレタリ等の出稿が低調で4.6%減となりました。一方、タイム収入は、女子プロゴルフトーナメント「RKB×三井松島レディス」や「博多どんたく港まつり」を入場・行動制限なく開催できたことや杭州アジア大会の番組等により4.6%増となりました。

ラジオ部門は、収入4億53百万円（前年同期比 6.8%減）となりました。スポット収入はアルコール飲料や遊戯施設等の出稿が低調で12.5%減、タイム収入も健康食品等のレスポンス広告が低調で9.6%減となりました。

システム関連事業

システム関連事業は、収入31億79百万円（前年同期比 12.2%増）、営業利益2億34百万円（前年同期比 137.5%増）となりました。利益率の高いSIサービス部門の受注が好調で増収増益となりました。

不動産事業

不動産事業は、収入5億16百万円（前年同期比 1.7%減）、営業利益5億16百万円（前年同期比 1.1%減）とほぼ前年並みで推移しました。

その他事業

その他事業は、収入5億54百万円（前年同期比 24.3%増）、営業利益32百万円（前年同期は営業損失38百万円）となりました。催事部門では「ミュシャ展」や「WHO AM I-SHINGO KATORI ART JAPAN TOUR-」等を開催しました。新型コロナウイルス感染症による規制が解除されたことで多くの催事を開催できたことなどにより増収増益となりました。

(財政状態)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、500億22百万円と前連結会計年度末と比べ9億95百万円増加しました。これは主に、株価の上昇により投資有価証券が14億72百万円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の総負債は、120億2百万円と前連結会計年度末と比べ1億18百万円減少しました。これは主に、支払等により流動負債のその他に含まれる未払費用が3億28百万円減少したことなどによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、380億19百万円と前連結会計年度末と比べ11億13百万円増加しました。これは主に、株価の上昇によりその他有価証券評価差額金が9億67百万円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1百万円増加し、101億59百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は11億23百万円（前年同期は6億63百万円）となりました。主な増加要因は、売上債権の減少額14億47百万円及び減価償却費5億57百万円であります。一方、主な減少要因は、棚卸資産の増加5億46百万円及び仕入債務の減少3億38百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は7億96百万円（前年同期は7億1百万円）となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出5億69百万円及び無形固定資産取得による支出1億11百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は3億26百万円（前年同期は5億7百万円）となりました。主な減少要因は、配当金の支払額1億64百万円及びリース債務の返済による支出1億50百万円であります。

(3) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,240,000	2,240,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	2,240,000	2,240,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	2,240	-	560	-	4

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社MBSメディア ホールディングス	大阪市北区茶屋町17番1号	198,000	9.03
株式会社毎日新聞社	東京都千代田区一ツ橋1丁目1番1号	189,300	8.63
株式会社麻生	福岡県飯塚市芳雄町7番18号	155,400	7.08
株式会社TBSホールディングス	東京都港区赤坂5丁目3番6号	140,000	6.38
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13番1号	102,000	4.65
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3丁目1番1号	73,300	3.34
西日本鉄道株式会社	福岡市博多区博多駅前3丁目5番7号	67,960	3.10
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(退職給付信託口・九州電力株 式会社及び九州電力送配電株式会 社口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	65,700	2.99
株式会社肥後銀行	熊本市中央区練兵町1番地	62,000	2.82
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	57,600	2.62
計		1,111,260	50.69

(注) 「発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合」は、小数点第3位を切り捨てて記載しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 47,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,186,000	21,860	
単元未満株式	普通株式 6,100		1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	2,240,000		
総株主の議決権		21,860	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社RKB毎日 ホールディングス	福岡市早良区百道浜 二丁目3番8号	47,900		47,900	2.13
計		47,900		47,900	2.13

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,258	12,360
受取手形、売掛金及び契約資産	4,533	3,024
棚卸資産	1 174	1 721
その他	2,365	2,530
貸倒引当金	4	1
流動資産合計	19,327	18,635
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,405	5,266
機械装置及び運搬具（純額）	653	688
土地	13,645	13,645
その他（純額）	2,072	2,426
有形固定資産合計	21,776	22,026
無形固定資産	236	305
投資その他の資産		
投資有価証券	5,301	6,773
その他	2,391	2,287
貸倒引当金	6	5
投資その他の資産合計	7,686	9,054
固定資産合計	29,699	31,387
資産合計	49,027	50,022
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	479	431
未払法人税等	68	163
その他	3,495	3,061
流動負債合計	4,043	3,657
固定負債		
退職給付に係る負債	4,629	4,570
その他	3,447	3,775
固定負債合計	8,077	8,345
負債合計	12,121	12,002

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	560	560
資本剰余金	4	4
利益剰余金	34,280	34,375
自己株式	185	185
株主資本合計	34,660	34,755
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,235	2,202
退職給付に係る調整累計額	79	64
その他の包括利益累計額合計	1,155	2,137
非支配株主持分	1,089	1,126
純資産合計	36,906	38,019
負債純資産合計	49,027	50,022

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	10,504	10,860
売上原価	6,909	7,086
売上総利益	3,594	3,773
販売費及び一般管理費	1 3,438	1 3,393
営業利益	156	379
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	80	83
その他	29	24
営業外収益合計	109	108
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	2	5
営業外費用合計	2	5
経常利益	263	483
特別損失		
固定資産除売却損	0	2
特別損失合計	0	2
税金等調整前四半期純利益	263	481
法人税等	105	174
四半期純利益	157	306
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	47
親会社株主に帰属する四半期純利益	135	259

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
四半期純利益	157	306
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	183	967
退職給付に係る調整額	15	14
その他の包括利益合計	167	982
四半期包括利益	10	1,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32	1,241
非支配株主に係る四半期包括利益	21	47

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	263	481
減価償却費	544	557
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	48	37
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	22	47
受取利息及び受取配当金	80	84
支払利息	0	0
固定資産除売却損益(は益)	0	2
売上債権の増減額(は増加)	1,183	1,447
棚卸資産の増減額(は増加)	102	546
仕入債務の増減額(は減少)	596	338
未収消費税等の増減額(は増加)	-	36
未払消費税等の増減額(は減少)	177	38
その他の資産の増減額(は増加)	170	316
その他の負債の増減額(は減少)	26	37
小計	1,153	1,099
利息及び配当金の受取額	80	84
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	571	59
営業活動によるキャッシュ・フロー	663	1,123
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	399	100
有価証券の売却による収入	0	-
有形固定資産の取得による支出	237	569
有形固定資産の売却による収入	-	69
投資有価証券の取得による支出	40	101
投資有価証券の売却による収入	-	16
無形固定資産の取得による支出	24	111
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	701	796
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	198	164
非支配株主への配当金の支払額	3	10
リース債務の返済による支出	304	150
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	507	326
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	545	1
現金及び現金同等物の期首残高	10,129	10,157
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 9,584	1 10,159

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、新たに設立した宗像陸上養殖株式会社を連結の範囲に含めております。

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社RKB映画社は、同じく当社の連結子会社であるRKBミュージック株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅し、連結の範囲から除外しております。なお、RKBミュージック株式会社は株式会社RKB CINCに商号変更しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
商品	146百万円	576百万円
仕掛品	16百万円	132百万円
貯蔵品	12百万円	13百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
人件費	1,294百万円	1,286百万円
(うち退職給付費用)	(80百万円)	(81百万円)
広告代理店手数料	1,224百万円	1,191百万円
減価償却費	103百万円	96百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	12,135百万円	12,360百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	2,550百万円	2,200百万円
現金及び現金同等物	9,584百万円	10,159百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	197	90	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	164	75	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	放送事業	システム 関連事業	不動産事業	その他事業	計		
売上高							
テレビ放送	6,210				6,210		6,210
ラジオ放送	487				487		487
システム関連		2,834			2,834		2,834
その他				445	445		445
顧客との契約から生じる 収益	6,698	2,834		445	9,978		9,978
その他の収益			525		525		525
外部顧客への売上高	6,698	2,834	525	445	10,504		10,504
セグメント間の内部売上高 又は振替高	52	57	414	706	1,231	1,231	
計	6,750	2,892	940	1,152	11,736	1,231	10,504
セグメント利益又は損失()	43	98	522	38	539	383	156

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 383百万円には、セグメント間取引消去2百万円、当社における子会社からの収入66百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 451百万円が含まれております。全社費用は、当社のグループ経営管理事業に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	放送事業	システム 関連事業	不動産事業	その他事業	計		
売上高							
テレビ放送	6,155				6,155		6,155
ラジオ放送	453				453		453
システム関連		3,179			3,179		3,179
その他				554	554		554
顧客との契約から生じる 収益	6,609	3,179		554	10,343		10,343
その他の収益			516		516		516
外部顧客への売上高	6,609	3,179	516	554	10,860		10,860
セグメント間の内部売上高 又は振替高	43	49	453	588	1,134	1,134	
計	6,653	3,228	970	1,142	11,995	1,134	10,860
セグメント利益又は損失()	5	234	516	32	777	398	379

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 398百万円には、セグメント間取引消去 3百万円、当社における子会社からの収入58百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 453百万円が含まれております。全社費用は、当社のグループ経営管理事業に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	61円75銭	118円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	135	259
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	135	259
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,192	2,192

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項ありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社RKB毎日ホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

福岡事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 増村正之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 室井秀夫

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社RKB毎日ホールディングスの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社RKB毎日ホールディングス及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。